

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	呼吸筋力で嚥下障害は予測可能か？ 最大呼気圧および最大吸気圧と嚥下障害の重症度の関連 [倫理審査受付番号：第 5121 号]
研究責任者氏名	内山 侑紀
研究機関長名	兵庫医科大学長 鈴木 敬一郎
研究期間	2025 年 8 月 21 日 ～ 2027 年 3 月 31 日
研究の対象	以下に該当する患者さんを研究対象とします。
	嚥下障害が疑われ、嚥下機能評価を依頼された 50 歳以上の患者さん
	受診日：西暦 2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 1 月 20 日
研究に用いる 試料・情報の種類	☐ 試料等 ☒ カルテ情報 ☐ アンケート ☐ その他（ ）
	取得の方法： ☒ 診療の過程で取得 ☐ その他（ ）
研究目的・意義	世界的な高齢化の進行に伴い、嚥下障害の有病者数は年々増加しています。嚥下障害は、低栄養、誤嚥性肺炎、身体機能の低下などを引き起こし、要介護状態の進行を早める要因の一つとされています。そのため、嚥下障害を早期に発見し、適切な介入を行うための評価指標の確立が急務となっています。呼吸と嚥下は本来、神経学的に連動して制御されており、呼吸と嚥下の適切なタイミングの調整は、誤嚥の予防にとって重要な役割を果たしています。しかし、加齢や疾患により呼吸筋力が低下すると、この調整がうまくいかなくなり、誤嚥のリスクが高まることが懸念されています。実際に、脳卒中患者においては、呼吸筋力が低いほど嚥下障害のリスクが高いとする報告もありますが、呼吸筋力と嚥下障害との関連については、まだ研究報告が少なく、明確にはされていません。 そこで本研究では、呼吸筋力を評価することによって、嚥下障害のリスクを予測できるかどうかを検討することを目的としています。呼吸機能の指標を従来のスクリーニング評価に加えることで、誤嚥リスクの推定精度を高められる可能性があります。

研究の方法	本研究では、過去に当院において嚥下機能評価を受けた 50 歳以上の高齢患者さまの記録を用いて、呼吸筋力と嚥下機能との関連性について検討いたします。通常診療で取得したカルテより呼吸機能（最大呼気圧・最大吸気圧）、嚥下機能（DSS、RSST、舌圧）、身体機能（握力、骨格筋指数）、基礎データ（性別、年齢、体重、BMI、疾患）についてのデータを収集させていただきます。なお、本研究では、通常の診療・評価の範囲で得られた情報のみを使用し、新たに患者さまにご負担をおかけすることはありません。また、使用するデータは個人情報的加工し、個人を特定できない形で集計・解析を行います。
個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的处理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
本研究に関する連絡先	診療科名等：リハビリテーション技術部 言語聴覚士 担当者氏名：大島 友貴 [電話] 平日（祝日でない、月曜日から金曜日）0798－45－6345 対応可能時間：09 時から 17 時 15 分